

いよいよ1月から、大河ドラマ「八重の桜」が始まりました。「ゲゲの女房」の脚本を書かれた山本むつみさんが担当しているだけあって、毎回見せ場があり、次回も是非見てみたいという気持ちにさせてくれます。

お届けいたしました第135号では、八重の特集をしてあります。座談会では、会津松平家や戊辰戦争を中心にお話をさせていただいておりますので、ドラマ鑑賞の参考にしていただきたいと思います。

また今号では、同志社の教職員、卒業生が執筆した八重関連の書籍も紹介しておりますのでお読みください。書店には八重コーナーが設けられており、ドラマ放映を機に、八重、新島襄、そして同志社への世間の関心が高まることを願っております。

ドラマの主人公である八重は銃の達人です。スベンサー銃を持ち、眼光鋭くまつすぐ前を見つめる八重の凛々しい姿は、ポスターにも使われています。この八重のライ

バル的存在が才色兼備の中野竹子（黒木メイサさんが演じる）です。薙刀の名手として名を馳せた女性で、婦女から成る娘子隊の一員でした。藩士たちとともに、勇猛果敢に戦いますが、敵の銃弾を浴び、深く、味方の介錯により、会津藩のために殉じます。彼女の薙刀に結ばれていた辞世の句は「もののふの 猛き心に くらぶれば 数にも人らぬ 我が身ながらも」です。八重は銃を、竹子は薙刀を武器に、敗色濃厚な藩のためそして

家族のために奮戦しました。二人の女性の生き様は、多くの人々に感銘を与えることでしょう。

訂正

134号に誤りがありました。左記のとおり訂正し、お詫びします。「特別寄稿・同志社大学の尹東柱詩碑建立過程の余談」

70頁上段 後ろから8行目

× いとこ ○ 弟

71頁中段 前から1行目

× 2月15日 ○ 2月16日

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・○印委員長

○大学文学部教授	秋篠憲一
大学商学部教授	青木真美
幼稚園教諭	遠藤稚絵
小学校事務長	藤井邦宏
法人事務部校友同窓課長	平野章生
大学言語文化教育研究センター准教授	洪宗郁史
大学法学部教授	伊藤靖一
中学校・高等学校事務長	鎌田伸浩
国際中学校・高等学校事務長	貴志北村
女子大学総務部広報課長	小林耕太
大学生命医科学部助教	小林賢章
女子大学表象化学部教授	小松田匡弘
香里中学校・高等学校事務長	溝畑潔
大学理工学部准教授	村木美紀
女子大学学芸学部准教授	中村伸也
大学企画部広報課長	中西弘和
女子大学薬学部准教授	二宮浩彰
大学スポーツ健康科学部教授	太田千尋
大学政策学部教授	角谷千尋
大学企画部広報室長	鈴木美紀
大学グローバル・コミュニケーション学部助教	田中あゆみ
大学心理学部准教授	立木茂雄
大学社会学部教授	富田健次
大学神学部教授	鳥嶋優子
女子大学現代社会学部准教授	津村宏臣
大学文化情報学部准教授	植村宏秋
女子中学校・高等学校事務長	山口見司
国際学院事務長	米田祐子
女子大学生活科学部准教授	吉岡康博
法人事務部長	四谷晃一
大学経済学部准教授	

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

- ・送料(1冊分200円)のみのご負担でご購読いただけます。
- ・お申込は、綴じ込みハガキをご利用ください。
- ・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入同志社大学企画部広報課

同志社時報 第135号
編集人 秋篠憲一
発行人 八田英二
発行 学校法人同志社
同志社大学広報課同志社時報係
電話 (075) 251-3120
印刷所 日本写真印刷株式会社
2013年4月1日発行